他者の苦痛の傍観者でしかない者はせめて苦痛の映像を自分にまとわりつかせよう——映像の現代的意味を問いかける本。

北條文緒

『他者の苦痛へのまなざし』
S・ソンタグ　みすず書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

「ツヴァイクは友情の巨匠」
ヘルマン・ヘッセ

ツヴァイク自身の「星の時間」は友情という媒体の中にかがやいた。

片山敏彦

『人類の星の時間』
S・ツヴァイク　みすず書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

フラッシュフォワード。未来が描けず絶望しかない状態のことです。
収容所がまさにそれ。そんななかでも立ち上がる精神がある。その奇跡をあなたのものにしてください。

池田香代子

『夜と霧　新版』
V・E・フランクル　みすず書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

静かで淡々とした日々。戦場は遠い。そこへ非日常と狂気が顔を覗かせ、まさかの結末へ。読者は一撃で目を覚まされる。

高田ゆみ子

『片手の郵便配達人』
G・パウゼヴァング　みすず書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

第二次世界大戦下における市井の人々の、勇気と葛藤、愛と友情、信仰と絶望、生きるための知恵と計略の物語です。

青木玲

『ユダヤ人を救った動物園』
D・アッカーマン　亜紀書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

生きた証すら残せなかった子らのために、未来のために、記憶の底の少女エヴァが語りはじめます。絶滅収容所を生き延びた女性の回顧録。

那波かおり

『13歳のホロコースト』
E・スローニム　亜紀書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

ナチスと関係した国はどのようにして歴史と真摯に向き合う方向に転じたのか。今の日本の雰囲気に疑問を感じている方にぜひ。

島村浩子

『隠れナチを探し出せ』
A・ナゴルスキ　亜紀書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

この時期にヒトラーは「民主主義はジョークだ」と言っています。
その後に起きたことは誰もが知る通り。
民主主義のこれからについても考えさせられる一冊です。

菅野楽章

『1924』
P・R・レンジ　亜紀書房

いま翻訳者たちが
薦める一冊

片やスパイ、片や飛行士として、ナチ占領下のフランスへ潜入した、2人の若い娘たち。謎でつづる、その使命と友情の物語。

吉澤康子

『コードネーム・ヴェリティ』
E・ウェイン　東京創元社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

苛酷なナチ強制収容所に入れられた 18歳のローズ。いかにして生き延び、脱出したのか。希望あふれる結末に胸が熱くなる。

吉澤康子

『ローズ・アンダーファイア』
E・ウェイン　東京創元社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

子供たちの豊かな想像力、信じがたいほどの強さが、収容所の闇を突き抜けて私たちを照らす。
そして希望と勇気をくれる。

野口百合子

『パールとスターシャ』
A・コナー　東京創元社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

ナチスの迫害に屈しなかったイレナを中心とする勇敢な人々の姿は胸を打つ。人間の尊厳について改めて考えさせてくれる本だと思う。

羽田詩津子

『イレナの子供たち』
T・J・マッツェオ　東京創元社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

ナチス人民法廷長官の評伝。司法が草の根の批判を封殺する道具に堕していく経緯と戦後ドイツの過去との取組みを静かな怒りとともに描く。

須藤正美

『ヒトラーの裁判官フライスラー』
H・オルトナー　白水社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

差別が憲法をねじまげ、憲法が差別をくみしきにかかる移民大国アメリカで、翻弄された日系人の迎合と反骨。

園部哲

『アメリカの汚名』
R・リーヴス　白水社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

「本を読むことは、汽車に乗ってバカンスにでかけるようなもの」本の魔法に助けられてホロコーストを生き抜いた少女の物語です。

小原京子

『アウシュヴィッツの図書係』
A・G・イトゥルベ　集英社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

日常を奪われ砂漠に収容されたある日系人一家のこの小さな物語を、元号が変わる年にぜひ噛みしめていただきたい。

小竹由美子

『あのころ、天皇は神だった』
J・オオツカ　フィルムアート社

いま翻訳者たちが
薦める一冊

4歳で絶滅収容所から生還した著者が、その事実を70年後に明らかにした理由とは?
フェイクニュースの時代にこそ読んでほしい一冊です。

森内 薫

『4歳の僕はこうしてアウシュヴィッツから生還した』
M・ボーンスタイン&D・B・ホリンスタート　NHK出版

いま翻訳者たちが
薦める一冊

いま翻訳者たちが
薦める一冊